

しながら、私どもとしては、安ければいいということではなくて、ある程度私どもも、大変な状況の中ではございますが、やはりしっかりとそれを担っていただくには、私どもとしても覚悟の上で依頼しなきゃいけないと思っておりますので、そういう考え方で、これから協議して進めてまいりたいと思っております。

○浅野敏明議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 ぜひスケジュールどおりに令和5年の当初から取り組まれるようにご努力いただきたいとお願い申し上げます。よろしくお願いします。

次に、教育長にお伺いします。

先ほどいろんな課題等、上げていただいたわけですが、やはりまだ4か月しかたっていない、しかも、同じ社会教育団体の中でも、総務課関係、地域づくりに関わる団体、それから、スポーツ少年団とか、スポーツに関わる団体、それぞれ違うわけですね。やっぱり違う中にも、今回の機構改革見直したことについては、プラスの部分が多いと私も思っております。様々な、議会の中での分野、所轄が変わったりということもあるわけですが、いろんな課題を1つずつ整理しながら、効果的にこの組織改革したことを進めるべきだと思いますけども、その辺、再度、教育長に考えをお伺いいたします。

○浅野敏明議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 お答え申し上げます。

今、金子議員からあったとおりです。今までもどうしても教育委員会というと、ここだけで終わらせてしまっている部分が非常にありますが、例えば、先ほどの体育関係ですと、全部生涯学習につながっていくわけです。健康づくり、そして、一生どうやって健康な一人の人間でいられるか、そこまで縦の系列を考えたときに、今回の機構改革で改めてそういう視点、健康づくりからの視点ということは非常に大事だと思います。今いただきましたように、全ての分野

が縦の軸でどういうふうに向かいながら、横と連携していくかという視点で、こちらのほうも鋭意市長部局とともに進めていきたいと考えておりますので、今後ともご指導よろしくお願ひしたいと思います。

○浅野敏明議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 ぜひそのような方向で取り組みなされまして、この機構改革がよりよい方向に進むようにご期待申し上げながら、私の質問を終わります。

渡部正之議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位7番、議席番号3番、渡部正之議員。

(3番渡部正之議員登壇)

○3番 渡部正之議員 おはようございます。清和長井の渡部正之です。

9月定例会一般質問をさせていただきます。

世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、県内でも感染者数が増えている状況にあります。県では、8月20日から9月12日までを感染拡大防止特別集中期間とし、県外との不要不急の往来は厳に控え、ふだんの外出は2分の1の時間で買物も短時間とすること、会食はいつも一緒にいる人と3人以内、1時間程度で済ませること、感染リスクの高い行動後は、家庭内でも不織布マスクを着用することなどの協力を要請し、事業者の方や学校関係の方へもそれぞれ具体的な協議要請がされております。あわせて、医療提供体制については、自宅、宿泊療養者への支援体制の強化、小中学校の教職員向け抗原検査キットの配付、若者向け新型コロナウイルスワクチン接種啓発キャンペーンの実施、また、PCR検査のさらなる拡充と医療提供体制の強化について示され

ております。ワクチン接種や様々な新型コロナウイルス感染症対策において連日対応されている方々は、疲労、心労、本当に多く、大変な日々であると感じております。深く感謝するとともに、どうか今後ともお力をお貸しいただきますようよろしくお願いいたします。

このような状況下、行われたオリンピックは、開催についてもいろいろな意見がありましたが、卓球競技の男女混合ダブルスにおいて、水谷隼選手と伊藤美誠選手が最強の国である中国を撃破して、金メダルを獲得いたしました。そのコーチを務めていたのが長井市出身の田勢邦史さんであり、この快挙を喜ぶとともに、長井市民としてもとてもうれしく、誇りに感じました。うれしいニュースを届けていただき、ありがとうございます。本当におめでとうございます。

それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

私からは、あやめ公園の今後についてと、組織機構見直し後の危機管理体制の2点を一括質問にて質問させていただきますので、ご答弁よろしくよろしくお願いいたします。

令和3年3月、あやめ公園再整備計画基本構想が示され、策定に当たっては、市民アンケート調査や庁内の子育て世代職員によるあやめ公園再整備計画庁内検討会議ワーキング部会において課題整理や方向性の検討、その後、あやめ公園再整備検討委員会を設置し、現地調査や整備施設検討などにより基本構想案が策定され、あわせて、パブリックコメントの確認などもされたということでありました。

あやめ公園再整備計画基本構想策定の趣旨としては、昭和48年に整備されたあやめ会館や無料休憩所等は、整備から40年以上が経過し、そのほかの施設も含め、老朽化や多様化する観光客のニーズに対応できない状況が見られ、あやめ公園の魅力向上に向けて、再整備が必要となっていること、また、平成25年に、市民が自慢

できる観光まちづくりを基本方針とする長井市観光振興計画が策定され、あやめ公園の特徴である長井古種のブランドイメージを生かしながら、美しく見せる公園への再構築が上げられていることなどから、あやめ公園の現況や課題を明確にした上で、希少な長井古種をはじめとするアヤメの育成・保存と観光まちづくりの視点からあやめ公園再整備の方向性を定めることを目的として策定するものとなっております。

あわせて、観光客を受け入れるための受皿づくりや長井の魅力、長井への旅などを全国へ発信し、観光交流人口増や地域経済の活性化につなげることを目指している一般社団法人やまがたアルカディア観光局が設立されたわけですが、観光誘客の基盤となる観光施設の再整備、また、施設の滞在性と満足度向上が必要であることもその一つとされております。

今後、このあやめ公園再整備計画基本構想を基に、具体的な整備に向けた検討を基本計画等で行っていくとされておりますが、将来の長井を考えたさらなる検討が必要と考えることから質問いたします。

1点目として、平成29年に来園者数の減少と施設の老朽化が課題となっているあやめ公園で、重点的に整備や改善をしてほしいところについて、市民アンケート調査が行われており、課題を整理、分類し、具体的意見等を踏まえつつ、再整備基本方針が示されたわけですが、調査対象が市内に住む20歳以上の方の中から無作為に抽出された1,000名でありました。高校生などの意見も取り入れたほうがよかったのではないかと感じています。今後の基本計画等に反映させていくことを検討してはどうかと思いますが、観光文化交流課長に伺います。

2点目ですが、公園の維持管理では、長井古種の希少性という意味でも、公園内で大切に保存し、栽培方法とともに伝えていくことがとても大切であり、今まで、アヤメの花を良

好な状態で管理されてこられている実績を受け継ぐ、年間を通して適正な育成管理ができる知識、経験からの人材育成が必要であると考えます。管理体制、協力体制の検討では、維持管理への市民参加、協力体制の構築として、花殻摘みや除草、改植などを市民参加で実施する体制を構築するとされており、現在行われているガーデニング講習会の開催やあやめまつり前、期間中の市民参加型管理イベントの創設などが具体的な整備方法として上げられておりますが、維持管理における人材育成を含めた運営方法をどのように考えているのか、観光文化交流課長に伺います。

3点目ですが、確かにあやめ会館や無料休憩所は整備から40年以上が経過し、老朽化が進んでいる状況であり、多くの市民や観光客が利用する施設であることから、安全性や利便性の確保は重要であり、建物の構造などから考えても、再整備時期に来ているように感じます。再整備を考えていくのであれば、あやめ公園再整備計画基本構想にもありますが、特にあやめ会館は今後、通年利用していただける施設になっていくべきであり、アヤメの開花時期である6月下旬から7月上旬以外は、あやめ会館を中心に人が集まるイメージを持った周辺の検討が必要でないかと考えます。長井市は、花のまちであり、花いっぱい運動への参加団体も増えてきている状況や、ガーデニングに関心のある個人、企業、団体等も増えてきていることから、あやめ会館周りを市民のガーデニングスペースなどにして、通年花が咲き、見ることのできる市民と観光客が集まる公園を目指していくべきと考えますが、観光文化交流課長の考えを伺います。

4点目に、あやめ公園の将来構想図、全体鳥瞰を見ると、全体的で大規模な再整備計画に思えます。今後、あやめ公園再整備計画基本構想に基づき、関係機関と連携し、財政状況を踏ま

えながら、財政負担の少ない手法を検討し、進めていくとされておりますが、圃場につなぐ古くなった送水管等の設備やあやめ会館などは整備していくとしても、正直、ここまでの整備は必要でないのではないかと感じます。時代を感じられるものや風景など、古きよきを残して伝えていくことも重要な考え方であると思いますが、市長のお考えを伺います。

次に、大項目2、組織機構見直し後の危機管理体制について質問いたします。

毎年のように全国各地で自然災害が頻発しており、広範囲にわたる記録的な大雨などにより、近年、氾濫危険水位を超過した河川数が5倍強となるなど、気候変動の影響が顕在化してきております。本市でも、先月末、大雨が続くなどしており、災害に対しての備えをしっかりとしておかなければならないと改めて感じたところでございます。

災害対策や避難所等については、毎回のように議会で質問議題として上がっておりますが、市内7か所に分散されていた市役所機能が集約となり、組織機構の見直しがされ、さらに新型コロナウイルスの影響により業務が多忙となっている中でも、いつ何どき起こるかもしれない災害に対しての備えを万全にしておくことが重要であることから質問いたします。

1点目として、組織機構見直し後、土砂災害等の災害時体制におけるマニュアル改定などはなかったのか、また、災害時における職員の対応については確認されているのかを総務課長に伺います。

2点目ですが、組織機構見直し後、災害時に関して、自主防災組織や関係機関との調整を図らなければならないような点は生じなかったのか、総務課長に伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部正之議員からあやめ公園の今後についてということで、私のほうへは、あやめ公園再整備計画基本構想に基づいて、今後様々な整備を行う際に、このたびの市民検討委員会と申しますか、そちらの考え方に対してどのように考えるかということのご質問をいただきました。

あやめ公園の再整備につきましては、古くは長井市観光協会から、やはり15年、20年前ぐらいからかなり老朽化してしまっただと。そして、平成7年、平成8年頃に、第1期工事として、現在の南側、半分の部分でございますが、多額の事業費をかけて整備してきたと。それが1期工事で、実は2期工事があったそうなのですが、それが整備されずに今日に至っているということから、アヤメは長井市のシンボルであり、市民の誇りであることから、ぜひ北側部分も含めて、再整備をすべきではないかという声が随分ございました。ただ、近年はそういったいろいろご提言をいただいた皆様の声がどんどん小さくなりまして、どこまで果たして整備ができるだろうかということ、まずは、庁内の検討委員会を設けながら、そして、公募して市民の皆様からご意見をいただいて、構想図ということで、まずは一旦まとめようということで、今回のあやめ公園再整備計画基本構想になったわけでございます。

長井市の中央地区にあやめ公園とつつじ公園、2つの公園があるというのは、これは私の理解ですけれども、先ほど金子議員のご質問でもお答えしたように、長井市が最上川上流域における長井の町場景観ということで、文化庁から重要な文化的景観の貴重な選定を受けたわけですが、それに関わっていると私はずっと思っていました。長井の舟運、船着場は、宮の藩の船着場と小出の船着場があったわけですね。この3月で退任された遠藤前副市長も横町ですので、よくおっしゃっておられましたけれども、宮のいわゆる商

人の人たちがあやめ公園を造ったんだと。それに対して、小出の商人の皆さんは、いや、我々もやんなきゃいけないということで、小出はつつじ公園を造ったんだと。そういうふうにお互い競い合って造ったのが、もうこのまちのど真ん中ですよ、あやめ公園も。もう110年以上、あのぐらい広大な公園を持ってる。あるいは、つつじ公園も琉球種の樹齢750年も超える株、子株が10株以上あるなんていう公園は、本当これはあまり例がないと私は思っています。

したがって、今回、当時の商工観光課のほうと話しして、そういう声があるから、市民の声をまとめていく必要があるんじゃないかと。整備手法は、ここに来て、いろいろ考えられるぞと。なおかつ、重要文化的景観になったのだから、それをやっぱり生かしていかない手はないだろうと。人口がどんどん減っていく中で、何とか地域の活性化を図るには、観光交流というのは大きな柱の経済政策の一つであると。それを考えた場合に、あやめ公園というよりも重要文化的景観の中のあやめ公園、つつじ公園と考えるほうがいいよと私は思っております。

現在、進めております5年間の長井市にとっては第3次都市再生整備計画事業、いわゆる都市構造再編集中支援事業で5割の補助で、グンゼ株式会社、グンゼ開発株式会社と一緒に隣りの公共複合施設、あるいは公立置賜長井病院も対象ですから、あれは5年間で約72億円の事業です。これはすごい事業費です。考えられないぐらいの事業費ですね。観光交流センター道の駅川のみなと長井を造った、あの事業も都市再生整備計画事業ですが、あれは全体として15億円ぐらいでしたから、その何と5倍近い。これが終わった後に、ぜひ同じような事業でやるべきだと。都市構造再編集中支援事業については、平成28年に5年間の内閣総理大臣の認定を受けた長井市中心市街地活性化基本計画があるわけですね。今年、第2期ということで認定

をいただきましたけども、それと長井市立地適正化計画と、2つの計画によって広大な72億円の事業を認めていただいたわけですね。

その根幹にあるのが、やっぱりこれからは人口がどんどん減っていく中で、中心市街地の活性化、コンパクトシティと、地域公共交通も含めての周りの小さな拠点とのネットワーク、そういった中で、まちなかに都市機能をもう一度再整備する必要があると。なおかつ、にぎわいをつくって、長井のまちが活性化するようにということでの事業なんですね。その第二弾が実はこのあやめ公園と一緒にあった重要文化的景観に基づく長井の町場景観を再現して、その一番の拠点は、やっぱり宮・小桜街区、いわゆる文教の杜を中心とした、あの周辺だと。丸大扇屋含め、質上通りがあって、古いまち並みが重要文化的景観を構成する建造物があるわけですね。同じように小出も、つつじ公園周辺、あら町、館町にそれらがあるわけですね。ですから、それを一体として、やっぱり整備しなきゃいけない。その柱があやめ公園で、その一つの要素だと思っています。

したがって、私はあやめ公園とは言ってますけども、あやめ公園だけを整備するんでは何の意味もないと思ってるんですね。やはり今の時代、花公園というのはいっぱいあるんですけども、それぞれいろいろな工夫をして、多くの観光交流、リピーターとして来てもらう。当然それは市民に愛される公園であるということが基本なわけですから、そういった観点で考えておりますので、したがって、渡部議員おっしゃるのはごもっともです。正直なところ、本当に公園だけをやるんだったら、莫大な投資して、本当に市民の皆様にご利用いただいて、愛され、親しまれる公園として発展できるのかと。あるいは、観光として、アヤメだけでしたらせいぜい1か月ですから、それだけで本当に多額の投資をしていいのかというのはごもっともです。

ただし、それは一つの象徴であって、長井のつつじ公園も、あるいは宮・小桜街区の文教の杜周辺の貴重な重要文化的景観を生かすという意味でのあやめ公園の整備は、これはしなければならぬと考えております。ただ、これからでするので、構想としては、やっぱり市民の皆さんには自由に構想いただいて、大変貴重な意見いただきましたし、これを実際に工事する際、計画を立てる際は、そういったものを生かしつつ、この中で、特に市民の皆様からの思いとしては、111年の歴史を残すということと、古い圍場とか、あるいはあやめ会館の脇にある松の木とか、中央噴水の池の付近とか、そして、水の流れ、自噴する池などもあるわけですから、そういったことを生かすことなども検討しながら、ぜひ今後、議会の皆様からも、渡部議員からもいろいろご助言いただきながら、市民と、そして、私ども一体となって、どうするか検討しながら、長井市が観光交流の活性化によって、振興によって、より元気なまちになるように頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○浅野敏明議長 赤間茂樹観光文化交流課長。

○赤間茂樹観光文化交流課長 あやめ公園の今後についての1番目でございます。市民アンケート調査を行い、具体的な意見等を踏まえたあやめ公園再整備計画基本構想が示されたわけですけども、高校生等の意見も取り入れるべきではなかったかの部分についてお答え申し上げたいと思います。

まず、整理のために少し流れをお話しさせていただきますが、令和2年度末に策定いたしました長井市あやめ公園再整備計画基本構想につきましては、この元となりましたのが、平成25年度に策定いたしました長井市観光振興計画から始まっております。この観光振興計画の中では、既存資源の重要性を説くことはもちろんでございますが、観光客を受け入れる基盤として

のブラッシュアップが必要ということも記載しているわけでございます。あやめ公園再整備計画基本構想書の17ページにも記載しておりますけれども、先ほど市長が申し上げましたとおりでございます。あやめ公園と隣接する、このたび、重要文化的景観の認定いただきました十日町かいわいなどとの関わりがすごく重要であるということも載せていると思います。平成27年度末から庁内検討会議を持ちまして、検討してきております。

庁内の中では、長井古種の希少性、全国のほかのあやめ公園との違い、保存管理の歴史、公園整備の経過、市民の思いと公園に対する希望などを整理させていただきました。そして、平成28年度に無作為抽出の市民アンケート調査を行いまして、多くの方からの意見も踏まえまして、長井市にとってのあやめ公園、市民及び観光客から見た位置づけ、公園活用の方向性などを報告書としてまとめたところでございます。

このたびは、これを受けまして、平成30年度から市民委員を募りまして、このまとめに基づく具体的な構想づくりを進めてきたところでございます。構想を策定するに当たりまして、アンケートの意見をまた再度見直しました。市民が望む公園像、観光資源として活用するために必要な整備などを列挙して、整理させていただいたところです。その辺もあやめ公園再整備計画基本構想書の中の折り畳みのページに記載されていると思います。

その作業の途中ですけれども、実は高校生の声を一回聞く場面がありました。それは、令和元年度の第3回長井ビジネスチャレンジコンテストにおきまして、高校生チャレンジ部門の中で、あやめ公園及び長井のアヤメについて意見をいただく機会がありました。その内容は、これは長井工業高校の生徒さんからのご提案だったんですけれども、今まで鑑賞型、花を見て楽しむという公園だったんですけれども、今度は参加体験

型という積極的な内容が多く、何パターンかいろいろ提案されておりました。もちろんその意見もあやめ公園の今後の使い方の中で参考にさせていただいて、活用していきたいなと思っております。

ただ、議員からご指摘いただきましたとおり、高校生の意見というのは、あやめ公園再整備計画基本構想書の中には具体的には反映されておられません。これから長井に残っていただく若者の意見というのは非常に重要だと思っておりますので、今後も機会を見て高校生の意見を取り入れていかなければならないなと思っております。特にあやめ公園の隣にあります長井工業高校の生徒の皆さんにおかれましては、あやめ公園の環境整備を年2回、多いときは3回行っていただいております。そういった機会に高校生と直接お話する機会もありますので、今後になりますけれども、声を聞きながら、具体的な基本計画策定に向かっていければなと思っております。よろしくお願ひしたいと思います。

次に、2番目といたしまして、アヤメの花を良好な状態に管理する実績を受け継ぐ人材育成が必要であると考え、人材育成を含めた運営方法について、どのように考えていくのかという部分でございます。

アヤメの育成及び公園の維持管理につきましては、現在、体制としては、公園管理専門員を1名、こちらは年間を通して雇用しております。実際の公園の育成管理と計画、植栽の指導、あとは日本花菖蒲協会というのがございまして、こちらとの技術提携などを行っていただいております。実際、あやめ公園の現場での管理業務ですけれども、こちらは4月から11月まで、期間雇用ということで、8名の方にお手伝いいただいております。ハナショウブの公園は、品種の固定というのが一番重要でございまして、いわゆる交雑種ができてしまっ、翌年、その花が咲いてしまうということを防止するために、長

井あやめまつりが終わるとすぐに株分け作業というのが最も重要で、かつ一番忙しい仕事になるところでございます。

現在、専門員1名プラス8名の管理体制で、ハナショウブの栽培技術を引き継げるように、いろいろ工夫しておりますが、主に今ベテランの方と経験年数の少ない方、こちらを2人1組のタッグで仕事を進めていただいております。そのほか、公園管理の意識を高めるために、班長と主任という役職を設けておりまして、その方々に技術と作業手順などの継承をまとめていただいて、伝えていく役割を果たしていただいております。この公園管理員につきましては、毎年募集を行っております、3月にハローワークをお願いしているわけですが、雇用期間が短いということがありますので、なかなか応募していただける方が少なく、苦慮しております。しかし、技術を伝達していくためには、ある程度長い間、従事していただくということも必要になってきますので、何とか二、三年に2人程度、入れ替わるように、いろいろな方を通してお誘いをしているという状況でございます。

アヤメのふるさとの長井市といたしましては、ハナショウブの栽培方法については、より多くの市民の方に知っていただいたほうがいいと思っております、かついろんな方が携わることで、市内にアヤメの花が増えるというようなことにつながると思っておりますので、数年前から株分けボランティアの募集を始めております。また、おとしになりますけれども、おとしからは、夏のガーデニング講習と題しまして、アヤメの株分け講習会を実施しております。今年は渡部議員もご参加いただきまして、ありがとうございました。このような市民参加の栽培技術習得の場面をつくりながら、あやめ公園に関わってもらえる方を増やしていこうという取組でございます。今後も、このほかにイベント的な公園

管理のボランティア活動なども行っていただかなければならないと思っておりますけれども、いづれ様々な取組を行いまして、公園管理員として将来担っていただけるような市民の方が増えればいいなということを思いながらこのような事業に取り組んでいるということでございます。

3番目に、あやめ会館につきましては、通年利用できる施設にすべきであり、開花時期以外はややめ会館を中心に人が集まるイメージを持って、アヤメ以外の花なども植えて、周辺の検討をする必要があると考えるがということのご質問でございます。

この基本構想を策定する中でも、やはり委員の方々からは同じような意見が出ております。構想図は、通年で活用できるようなイメージを持って描いていただいたわけですが、抽象的な表現で描かれておりますし、また、色遣いが洋風に見えてしまったという欠点がございますけれども、アヤメ以外の花も楽しめるように、園内にそういったガーデニングなどの花も植える場所を設けるということで委員会の中ではまともっております。その場所については、新しいあやめ会館の周りという具体的な場所は示しておりませんが、園内にはフラワー都市交流の花壇やガーデニングの手法によって市民の皆さんに植えていただく場所なども盛り込んでいくように配慮していきたいと考えているところです。

なお、あやめ会館の場所についてですが、これは委員の方々の意見がまとまってきた部分でもあります、構想図によりますと、北側のほうに移動してると思っています。これはどういうことかといいますと、やはり通年利用を考えた位置ということで、隣の野川河川敷の活用、あと、芝生広場なども設けながら、親子連れでも、あるいは子供会などの行事などでも年間を通して使っていけるような場所ということ、また、公園へのゲート機能も兼ね備えてるということ

で、そういった位置に配置させていただいた図になっているということを最後に付け加えさせていただければと思います。

○浅野敏明議長 小林克人総務課長。

○小林克人総務課長 私のほうには、2、組織機構見直し後の危機管理体制ということで、2点ご質問をいただいておりますので、お答えを申し上げます。

初めに、(1)組織機構見直し後、土砂災害等の災害時におけるマニュアル改定などはなかったのか、また、災害時における職員の対応については確認しているのかとのご質問でございます。

まず初めに、今年5月1日の組織機構の見直しの概要でございますが、先ほど来ありましたが、少子高齢化、人口減少の課題を見据え、政策主導型で機能性と実効性を高める観点と、地域の実勢及び自立性を高めるための観点から、市長部局と教育委員会の職務権限の在り方を見直し、教育委員会の社会教育分野を市長部局に移管し、生涯学習が地域づくりと、スポーツが健康づくりと、文化や文化財が観光とそれぞれ一体化して、これまでの考え方、手法等にとらわれない新しい進め方により、事業の広がりや発展を期待するものでございます。

この中で、地域のコミュニティセンターが重要な役割を果たすことと思っておりますので、地域防災につきましても、コミュニティセンターと連携した取組を今まで以上に推進してまいりたいと考えてございます。

危機管理体制に係ります組織の見直しは、今回行っておりませんので、国、県、他自治体や市の建設部門との初動体制、連携、調整等の対応に変化は生じていない状況でございます。新庁舎になりまして、市内7か所に分散しておりました市役所機能が集約されたことで、職員同士のコミュニケーションや災害時の情報連携が迅速、かつ的確にできるようになったと感じて

いるところでございます。また、今年度は、西置賜行政組合との職員相互交流を再開いたしまして、消防署から1名の職員を派遣いただき、危機管理体制の強化を図り、今まで以上に消防本部、消防団との初動体制、情報連携が円滑に図られているところでございます。

市では、災害時における職員の責務を明確にいたすため、職員初動マニュアルを作成してございまして、今年度におきましても、組織機構見直し後、マニュアルの改定を行ったところでございます。改定の内容といたしましては、人事異動に伴う避難所担当職員等の人員体制の変更や今年5月の災害対策基本法改正に伴う避難情報発令の変更、避難指示と避難勧告が避難指示に統一などがされておりますので、法改正も含めまして、マニュアルの改定を行ったところでございます。

災害時における職員の対応につきましては、職員初動マニュアルを全職員に周知するとともに、避難所担当職員の説明会は特に重要でございますので、毎年開催しているところでございます。内容といたしましては、避難所における対応手順といたしまして、避難所の開設から新型コロナウイルス感染症対策用品等、必要備品の確認、また、感染症対策の徹底、避難者の受付方法や備品の配付、食事の手配などについて確認をしているところでございます。

続きまして、(2)組織機構見直し後、災害時に関して、自主防災組織や関係機関との調整を図る必要がある事案は生じなかったのかとのご質問でございます。

災害時におきましては、消防署、警察署、東北電力等の関係機関と情報を共有し、連絡を密にして対応に当たってございまして、この体制につきましても、組織機構見直し後も変わらず、先ほどの答弁と重複しますが、消防職員との相互人事交流によりまして、より一層連携を強化するように努めているところでございます。

自主防災組織につきましても、毎年、長井市自主防災組織連絡協議会役員会を開催し、市の対応といたしまして、会議、研修会の開催、長井市自主防災組織活動費補助金、また、長井市自主防災組織防災資機材等整備事業費補助金等の説明及び更新いたしました避難所備蓄物資の配布、長井市総合防災訓練の案内、内容等につきましてご説明し、情報共有を図っているところでございます。本来ですと、役員会開催後に総会を開催しているところでございますが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえまして、本年度につきましては、役員会を総会に代えさせていただきますまして、各自主防災組織に関連資料を送付などしまして、情報共有に努めているところでございます。

○浅野敏明議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 何点か質問させていただきます。

最初に、アヤメの育成、公園の管理についてであります。先ほどの答弁の中にもありましたけれども、まず、このたび、アヤメの株分け作業に参加させていただいたわけですが、やはり私自身、長井市に住んでいる住民として、アヤメのよさ、そういうものをすごく感じる機会となりましたし、一方、アヤメの育成、そういったところの大変さも感じたところでありました。参加者も多く、市民のアヤメに対する思いも感じることができましたし、中央コミュニティセンターでは、あやめ“花いっぱい”プロジェクトなども行われておりまして、今後、市民のアヤメに対する意識、こういったものも広く伝わっていくのではないかなと思っています。しかしながら、参加者の中でも若い年代の方が少ないように感じましたし、やはりそういったところが課題なんだろうなと思っています。

様々な事業を通して、そういった意識の向上であったり、人材育成というところで取り組ま

れておりますけれども、その中で、若い人たちに参加していただけるような工夫なんかも必要ではないかと感じたところでもありますけれども、再度お聞かせいただきたいと思っております。観光文化交流課長に伺います。

○浅野敏明議長 赤間茂樹観光文化交流課長。

○赤間茂樹観光文化交流課長 アヤメの育成に携わる市民の方々につきましては、夏のガーデニング講習会というものを2年間しかまだ開催しておりませんので、これからどういった展開ができるかということかと思っております。確かに若い方々がなかなか実際には参加しておりません。先ほど議員からもご紹介ありましたように、中央コミュニティセンターで、そういったアヤメの育成に取り組む活動が出てきたというのは非常に嬉しいことだと思っております。恐らく若い方々が自主的に個人で参加するということは今後も少ないと思っております。コミュニティセンターの活動というのは、すばらしくいい活動だなと思っております。その中で、若い人もグループで参加できるような体制などができればいいかなとは思いますが、今後、どのように若い方々に関心を持っていただけるように取り組むかというのを検討していきたいなと思っております。以前、長井工業高校の生徒でアヤメの研究をした生徒がおりまして、伊佐沢に住んでる生徒だったと思っておりますけれども、そういった興味持てる方もいらっしゃるということが分かりましたので、長井工業高校の生徒の皆さんとも今後の活動について、少しその育成の部分も含めて、お話ししていきたいなと思っております。今後、そのような方向性のことも考えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

○浅野敏明議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ありがとうございます。興味を持っていらっしゃる高校生もいるということをお聞きいたしまして、本当にそういったところの部分が進んでいけばいいなと思ってお

りますし、新しい事業展開といった意味で期待しております。どうぞ進めていただきたいと思っております。

もう1点、観光文化交流課長に伺いたいと思っております。隣接する長井TBC球場やあやめ公園多目的運動広場、こちらのほうは整備されておりますし、今はコロナ禍ということで、練習や大会等で市外、県外からお越しいただいている方は少ないと思っておりますけれども、アフターコロナにおいては、例えばあやめ公園を知らない人でもあやめ公園の西側の入り口、あやめ公園駅があるあたりですけれども、現在は獣道のような感じになっていると思っております。現段階では、あやめ公園駅を少し北側に移動して、メイン入場入り口と一体化していくような構想となっておりますけれども、例えば市外、県外からお越しいただくような方の西側の入り口について、検討された内容ですか、そういったことがあれば、それと、今現在の考えをお聞かせ願えればと思っております。

○浅野敏明議長 赤間茂樹観光文化交流課長。

○赤間茂樹観光文化交流課長 構想図のほうには非常に斬新な形で、新しいあやめ公園駅、新駅という形で描かれております。そこに至った経緯については、現在のあやめ公園駅、これは西側にホームがあります。実は東側からあやめ公園に真っすぐ歩いていったほうが近いんでないかというお話がありまして、委員の中からは、東側にもホームを造って、横町の裏道を通して、あやめ公園高台下に通じる道を造ってはどうかというご意見があったところです。ただ、そのお話を実際の鉄道管理者のほうとも話をさせていただきましたけれども、はっきり言って、許可出ないということで、無理だと。線路が2つある複線の場合だと可能性あるんですけども、単線のため、それは無理だというようなことで、じゃあ、できないものは載せられないなということで、新駅という発想になった経過がございます。

ます。あやめ公園と隣の長井TBC球場、あやめ公園テニスコート、あやめ公園多目的運動広場、一体的な都市公園になっております。線路を越えての行き来が今はなかなかスムーズにいかない状況になってまして、その新駅なども構想しながら、西側との行き来が何とかならないかなというのも一応構想づくりの中にはありましたけれども、残念ながら、具体的な案は出ていないといった状況でございます。

ただ、あやめ公園内の駐車場ですけれども、やはり大型バスと乗用車の動線が同じところを今現在通っているということから、分けたいということで、横町の道路から入る入り口をご提案されているものでございます。将来的には、大型バスというのは今後増えるかどうか分からないんですけども、少しそういった動線を別にしてあげるとということで、より利便性が高まるのかなと考えているところでございます。

なお、具体的な整備については、これからのお話でございまして、事業メニューもまだ全空白紙の状態でございますので、今後できるかどうかという技術的なことも含めて、建設課なども相談しながら進めてまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○浅野敏明議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 現在のところということで、具体的イメージはなかなかまだ出ていない状況であると思っておりますけれども、やはり全体を見て、いろんなところから入ってこられるイメージも持っていて、ぜひ検討を進めていただきたいと思っております。

市長に伺います。

令和2年度からスタートいたしました第2期長井市まち・ひと・しごと総合戦略ということで、人口減少に対応できるSociety5.0の実現を掲げておりまして、このたびのスマートシティの実現構想、こういったところで本当に市長の若い人たちに向けた思いのようなもの

が伝わってきます。また、長井市まちづくり少年議会、今回、コロナ禍で中止になったわけですが、中高生に長井市の現在やっている取組などを思いなども乗せながらお伝えできるという場を設けられたということで、長井市がやろうとしている、そして、やろうとしているのは、こういう思いがあるからだということをやはり若い年代に伝えていく。そして、例えばこのあやめ公園整備というのは、やっぱりこれから未来を担う人材、こういったところの人たちにも関わっていただくということが本当に私は大切なんだと思います。

先ほどの市長の答弁の中の、宮・小桜街区、そして小出、こういった重要文化的景観と併せたということも若い人たちに伝わってほしい。そういった、例えば教育でいいますと、長井の心を育てている事業も充実しているわけですから、ぜひ今後、こういった整備をするような事業があれば、やはり未来をつくっていく、若い人たちの意見を聞いて取り入れていただきたい。そういった場をつくっていただきたいと考えますけれども、市長のお考えを再度お聞かせください。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部議員おっしゃるように、未来の長井を担っていただく次世代の若い人たちにこういった様々なまちの重要な事業に関わっていただくということは、必要不可欠だと思っております。したがって、議員からあった、高校生なんかいろいろなアンケートを取ったり、高校生の意見を取り入れるということ、こういったことは必要だと思うんですが、やはりこういう、特にハードをする場合は、その前のソフトの部分で関わっていかないと、なかなかうまくいいものはないと思ってますので、したがって、あやめ公園をどうするかということよりも、例えば長井のまちなかの中で観光交流の中で、こういったまちにすべきだと思いますか

と。例えばあやめ公園についてはどうしたらいいとか、あと、まち並みとか、あるいは自分が行ってみたいような観光地にするにはどういったことが大切だとか、そういったことも含めて、やっぱりうまく意見を引き出すような工夫が必要だと思ってますので、ただ、議員おっしゃるように、非常にこれは大切なことだと思いますので、今後、そういう計画を策定する際には、いろいろ方法等々について検討して、意見を反映できるようにしたいと思います。ありがとうございました。

○浅野敏明議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ぜひソフト面の部分でも高校生がまちづくりに関わっていけるような、そんな体制を取っていただければと思っております。

最後になりますけれども、組織機構見直し後の危機管理体制についてであります。市役所機能が集約となって、組織機構が見直された、そのタイミングで、やはりコロナ禍ということで、新型コロナウイルスワクチン接種対応など、本当に職員の方のご負担もいろいろあったと思いますし、ストレスに感じるようなこともあったのではないかなと察しているところです。しかし、こういったときでも、いつ何どき災害が起こるかもしれない。8月頭あたりにも、やっぱり雨があのようになっていると。こういったときになったらどうなるのかなというのを危惧した点がありましたので、こういった意味から質問の内容にさせていただいたところであります。

ぜひこういった時代ではありますけれども、市役所機能が一本化になったということは、やはり調整面等、メリットがたくさんあると思っておりますので、ぜひ調整を図っていただいて、災害時にはスムーズな運営ができるようお願いしたいと思います。

私の質問は以上です。

○浅野敏明議長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時58分 休憩

午後1時00分 再開

○浅野敏明議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

なお、小関秀一議員、鈴木 裕議員から資料の配付について申出があり、会議規則第150条の規定により許可いたしましたので、ご報告いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

今泉春江議員の質問

○浅野敏明議長 順位8番、議席番号14番、今泉春江議員。

(14番今泉春江議員登壇)

○14番 今泉春江議員 日本共産党の今泉春江でございます。

内谷市長に3つの質問と提案をいたします。

まず第1は、ジェンダー平等についてです。

ジェンダーとは性ということですが、ジェンダー平等とは一口で言えば性による経済的、社会的差別をなくすことであります。私たちに日本共産党は、男女の平等、同権をあらゆる分野で擁護し、保障する。女性の独立した人格を尊重し、女性の社会的、法的な地位を高める。女性の社会的進出・貢献を妨げている障害を取り除く。性的指向と性自認を理由とする差別をなくすというジェンダー平等社会をつくることを綱領に掲げ、運動しています。今この運動は国

際的な流れになっており、国内でも大きな流れになっています。

そこで、伺いますが、市長は、このジェンダー平等をどのように受け止め、市政に生かすおつもりなのかを伺います。

次に、その一つとして、今回はコロナ禍の女性問題について伺います。

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、雇用や生活への影響が出てきています。閉塞感、不安、悩みなどが今までになく市民全体に増大しています。特に女性に及ぶ深刻な問題を見逃さず対処することが重要と思います。

そこで、コロナ禍の昨年から今年にかけて、市は女性問題がどんな内容でどれくらいあり、どう対処しているか、伺います。

問題は、市に相談に來ない女性問題をどう把握し、解決するかです。そのために市は女性がどんな問題を抱えているかを捉える必要があります。アンケート調査を行う。民生委員に把握をお願いするのも一つの方法であり、市民相談センターの存在と利用をもっと知らせることも必要と思われます。女性が一人で悩むことがないようにすることが大事であると思いますが、いかがでしょうか。市長のお考えをお聞きします。

次に、市の職員体制について伺います。

現在の市の職員は307人と報告されていますが、その中での幹部職員は、監という職が3人、参事職は5人、課長職は23人で、主幹職が8名、合計39名です。そのうち、女性は、課長職の5名、主幹職の4名で、主幹以上の管理職の男女比は、管理職39名のうち、女性は9名ですので、女性は約23%です。女性は人口の半分以上を占め、教育や資質も決して男性に劣るものではありません。もっと女性の力に頼るべきです。女性の幹部職員の起用をなさってください。市長のお考えをお聞きいたします。

第2に、温暖化による台風や線状降水帯の発